

中国花卉協会文書

中花協字〔2017〕11号

《2017年全国花卉生産販売状況分析報告》の公告に関して

各省、自治区および直轄市花卉協会、中国花卉協会の各支部組織、各重点花卉産業区、重点花卉市場、花卉産業の主要企業 宛：

中国全土の花卉生産販売の動向を適時に把握し、2017年における中国全土の花卉生産販売の状況を研究し、中国の花卉産業を健全で持続可能な発展へと導き促進するために、中国花卉協会は2017年2月27日に四川省西昌市において、「2017年全国花卉生産販売状況分析会」を開催し、鉢物、切花、盆栽、緑化鑑賞用苗木の生産・販売状況の分析を基礎として、国家統計局によって発表された花卉統計情報および江蘇省、河南省、寧夏回族自治区など17の省（区・市）から提出された「2015年、2016年花卉生産販売状況および2017年花卉販売状況調査票」（中花協字〔2017〕1号）を合わせて取りまとめ、集計、総括並びに総合分析を行い、「2017年全国花卉生産販売状況分析報告」を作成し、ここに参考に供するために公告する。

付属文書：2017年 全国花卉生産販売状況分析報告



目 次

一 鉢物

(一) 生産販売状況	－ 3
1. 大型鉢物	
(1) シンビジウム	－ 4
(2) ファレノプシス	－ 5
(3) アンスリウム	－ 6
(4) アナナス	－ 7
(5) マランタ	－ 7
2. 名花	
(1) ツツジ	－ 8
(2) 中国春蘭	－ 9
(3) クリビア	－ 9
(4) スイセン	－ 9
(5) ボタン	－ 9
(6) サザンカ	－ 9
(7) ハイブリッド蘭	－ 9
3. 多肉植物	－ 10
4. 小型鉢物	－ 10
5. 果実観賞用鉢物	－ 11
(二) 生産販売の特色	－ 12
(三) 対策と提言	－ 13

二 切り花

(一) 生産販売状況	－ 15
(二) 生産販売の特色	－ 16
(三) 生産販売のトレンド	－ 18

三 盆栽

(一) 生産販売状況	－ 18
(二) 生産販売の特色と問題	－ 20
(三) 対策と提言	－ 20

四 緑化観賞用苗木

(一) 苗木産業の現状	－ 22
(二) 生産販売の特色	－ 24
(三) 主な問題点	－ 29
(四) 展望	－ 30

2017 年全国花卉生産販売状況分析報告

2016 年の中国全土の花弁作付面積は 132.91 万ヘクタールで、前年比 1.81%増加、売上高は 1616.49 億元で、前年比 24.10%増加した。輸出額は 5.94 億米ドルで、前年比 4.20%減少した。本報告は、鉢物、切花、盆栽および緑化鑑賞用苗木の 4 大分類ごとの分析を行ったものである。全体的に、2016 年の中国では、鉢物の総生産量が安定的に増加し、品種が豊富になり、品質が向上した。また供給は十分であり、生産と販売は基本的に平衡がとれている。切花は、生産と販売の状況は良好であった。盆栽は、産業の制約要因が比較的多いことから、好ましい点と憂慮すべき点が相半ばした。緑化鑑賞用苗木は、最近の数年間は低迷していたが、生産と販売の状況は 2017 年に入り好転してきた。しかし全体的な状況は依然として厳しい。

一．鉢物

(一) 鉢物の生産販売状況

鉢ものには、大型鉢物、梅や牡丹など「伝統名花」と呼ばれる鉢物（以下「名花」という）、多肉植物、小型鉢物などがある。そのうち、「大型鉢物」では、シンビジウム、ファレノプシス（胡蝶蘭）、アンスリウムのいずれも生産量が増加し、価格ではアンスリウムを除きある程度前年比で上昇した。アナナスの年間生産量は基本的に安定しており、価格の変化は小さかった。また、高品質製品の供給は逼迫した。「名花」では、中国蘭市場の状況は良好で、品質も良く、生産・販売量は安定的に増加し、価格はやや上昇した。ハイブリッド蘭は歩留まりが低く、価格上昇が見られた。ツツジ、ボタンの生産量は増加し、価格は安定していた。クリビア（君子蘭）の販売量は減少したが価格は比較的安定していた。また種子、苗の生産量がいずれも増加した。サザンカの生産量は安定しており、価格の変化は小さかった。「開花類小型鉢物」の総量は増加し、製品価格は比較的安定していた。「多肉植物」は生産量が急速に増加し、品種も増えた。需要は旺盛で、価格は絶えず最適化され調整されている。草花および花壇用花卉の生産量は基本的に安定し、需要は増加しており、価格が回復している。

1.大型鉢物の生産販売状況

(1) シンビジウム

2016 年における中国全土のシンビジウムの総生産量は約 560 万鉢であった。そのうち、雲南省の生産量が約 500 万鉢で全体の約 90%を占めた。同省は中国最大のシンビジウムの生産・販売拠点で、同時に世界的にも重要な生産拠点となっている。このほか、四川省のシェアが 7%、遼寧省、山東省、貴州省、浙江省、江蘇省でも少量ながら生産されており、総生産量は 2015 年を上回った。品種は、「紅霞」、「黄金歲月」、「金光」など赤・黄色系が中心となっている。

卸売価格は、品種・品質に応じて 1 鉢当たり 30～120 元と様々で、平均価格は約 75 元、2015 年と比べて 7.14%上昇した（図1-1）。

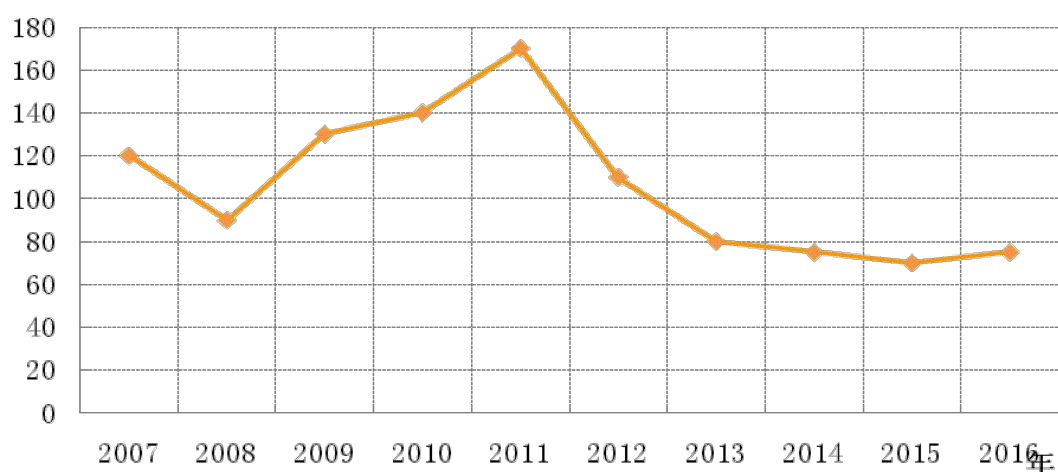


図1-1 2007-2016年雲南省のシンビジウム平均価格

販売地から見ると、浙江省（浙江伝化生物技術有限公司）、江蘇省（溧陽市）などで生産量、販売量が増加し、平均価格が上昇した。浙江省では生産量が 2015 年の 5.5 万鉢から 6 万鉢に増加し、販売量は 5.13 万鉢から 5.9 万鉢に増加した。平均単価は 2015 年の 72.8 元から 92.3 元へと 27%上昇した。江蘇省では生産量が 4.3 万鉢から 4.5 万鉢に、販売量は 4.2 万鉢から 4.45 万鉢に増加し、平均単価は 100 元から 120 元に上昇した。青州地区（山東省）の年間販売量は約 50 万鉢で、広州を除く

第二の大中継市場となっており、販売量は 4.2%増加、価格は約 8%上昇した。同地区の市場はミドルエンドからローエンド製品の消化能力が強い。北京地区の販売状況は良好で、一部で品切れが生じた。2017 年1 月には、各地の花卉市場において、落ち込んだ後に上昇に転じるという値動きが見られた。これは、前年の旧正月期間に販売量が伸びなかったことから、今年の旧正月期間においても当初、売れ行きに対する自信が不足しており、各業者が比較的安値で出荷したが、後期の小売市場拡大後に需要が増加し価格が上昇したためである。2016 年には、雲南省からベトナム、ミャンマー、タイなどへのシンビジウム輸出が増加し、輸出量は約 60 万鉢に達した。一方で、韓国のシンビジウム輸入量は減少しており、通年での輸入量は 10 万鉢未満となっている。「二線城市」「三線城市」と呼ばれる地方都市においてはまだシンビジウムの消費拡大は起きておらず、多くの市場でシンビジウムを見ることは少ない。ただ経済成長と品質向上に伴って中国国内の年間需要量は 1000 万鉢以上に達すると見込まれており、シンビジウム市場の今後の見通しは明るいと言える。こうしたことから、今後多くのシンビジウムの生産者、個人農家の介入に伴い、2017 年の生産量はさらに増加し、雲南省では 520 万～540 万鉢に達すると見られている。高品質なもの、新品種、切花、小型の鉢物、各種アレンジメントや吊り下げ栽培等に大きな注目が集まると予想される。

(2) ファレノプシス（胡蝶蘭）

ファレノプシス（胡蝶蘭）の生産量と価格はいずれも増加しており、中でも多色の花の比率が上昇している。春節（旧正月）期間は赤系の供給が需要に追いつかず、価格が上昇した。2017 年の旧正月期間の全国の販売量は 4000 万株で、そのうち、広東省が 1800 万株となり前年同期比で約 20%増加、上海地区が約 200 万株で約 11%増加、青州地区（山東省）は約 600 万株で約 15%増加、北京は 300 万株で約 10%増加、浙江省、河南省などでもそれぞれ増加した。販売価格の上昇も続いており、各地区における胡蝶蘭の単価は

いずれも 20～25 元となり、赤系の価格は多色系よりも高い。溧陽市（幸福蘭業）のミニ胡蝶蘭の生産量と販売量はいずれも増加を続けており、生産量は 2015 年 5 万トンから 6 万トンへと 16.7%増加した。販売量は 4.5 万トンから 5.6 万トンへと 19.6%増加し、価格は約 40 元と安定している。

赤系の生産量が少なく、価格が急上昇したという点が、2017 年の春節期間の胡蝶蘭販売における顕著な特徴である。過去 2 年間、通常時においては多色系需要が増加し、種苗業者と生産者が多色系の増産に努めたために、その結果、赤系の生産量が減り、春節期間の伝統的消費需要を満たすことができなくなった。主力品種は往年と同等で、赤系では「大辣椒」、「火鳳凰」が主なものだった。多色の品種は豊富で、年間を通じては消費量の増加が続いている。昨年から、組織的種苗生産者の多くが赤系の不足に注目し赤系の増産を開始しており、2017 年の赤系の生産量は、大幅に増加すると見られている。そのうち、「大辣椒」の苗量が供給過多となる可能性があるという指摘されている。総生産量は増加傾向で、これと同時に年間生産供給も増える模様だ。

地域の違いにより、胡蝶蘭の花期に影響が及んだ。北部では夏季の気温が比較的高かったことが影響し、開花時期が遅くなった。これに対して南部では暖冬の影響で、一部で花期が前倒しとなった。ただし全体的には、販売状況は楽観視でき、販売も安定している。

(3) アンスリウム

2016 年は、アンスリウムの生産量が増加し、価格が下落した。過去 2 年間のアンスリウム市場の状況が比較的良好であったことと、需要増加に対応して温室増設が続いたことにより生産量が急速に拡大した。2016 年の中国全土の総生産量は 4000 万鉢に達したと予想され、2015 年から大幅に増加した。労働節休暇期間より、アンスリウム市場では、販売量の減少と価格下落が始まり、主流となる鉢直径 15 cm の「特倫薩」、「火焰」等品種の卸売価格が 17～21 元、小株品種は 7～10 元で、2015 年と比べて価格が約 5

元下落した。10 月に入ってから価格はやや反発したが、春節期間は商品供給量が従来通り多く、価格の変化はほとんど見られなかった。状況から判断すると、当該品種は広東省が主生産地であるが、一部の企業で製品が予定通り出荷できなかったことから在庫が増加し、低価格での在庫処分が行われたためと思われる。また、種苗から製品までの生長周期が長いことから、昨年上半期の種苗はすでに生産されており、今年の生産量は前年並みで、価格は底を打つと見られている。

(4) アナナス

アナナスの需給状況は通年にわたって安定しており、価格はやや上昇した。今年の旧正月期間における中国全土での販売量は約 800 万鉢で、前年に比べ変化は小さかった。品種別に見ると、「丹尼斯」、「紅星」が依然として主流を占め、販売量最多は「平頭紅」であった。旧正月期間には価格が小幅ながら上昇し、ハイエンド品では供給が需要に追い付かなくなった。価格の面では、出荷価格と卸売市場価格の双方とも妥当な水準で、北部ではミドルエンド品で約 20 元、ハイエンド品で 30 元に達した。南部では品質の差が明らかで、価格の二極化が顕著であった。ローエンドからミドルエンドの品の大多数は市場から淘汰された。ただし全体的な販売価格はそれほど大きな影響を受けていない。環境汚染や、石炭による温室制御が必要となるなどの要因で、北部ではアナナスの供給量の減少が続いており、北京、天津などの花卉生産者の間で、アナナス生産の放棄が相次いでいる。広東地区では、小規模アナナス生産企業や個人事業者数が増加し、生産面積の拡大が続いており、南で生産量が増え北では減るという状況が継続している。

(5) マランタ

マランタの生産地は北京、天津、山東省、広州等に集中している。マランタは、通年にわたって生産される観葉鉢物で、生産環境と管理技術において高いレベルが要求されるため、新規参入の障壁が高く、農家を尻込みさせている。生産量と価格は比較的安定しており、大きな変化がない。

山東省での生産量は約 50 万鉢で、生産量と価格はほぼ前年と同等の水準となっている。価格は、最大幅 40 cm、高さ 40 cm の「青蘋果」、「美麗」、「彩虹」などの卸売価格が 20～22 元。大型鉢で高品質のマランタの単価は 30～35 元で、旧正月期間には需要が急増した。これに対して小型鉢のものが 1 年を通して主流となっており、販売状況は通年にわたって良好で、「二線城市」、「三線城市」と呼ばれる品種の地方都市での需要が安定的に増加した。品種別に見ると、従来から知られる「蘋果」、「紫背」、「猫眼」、「天鵝絨」、「飛羽」が依然として市場において主力で、新品種の知名度は低く、新品種による旧品種の置き換えは緩やかとなっている。

2. 名花

(1) ツツジ

ツツジの生産量は通年にわたって増加しており、価格も安定している。アザレア（西洋ツツジ）の主要産地は福建省、江西省、江蘇省、四川省、山東省および雲南省に集中している。そのうち、福建省、江西省、山東省では生産量が増加し、特に中小規格品の販売が伸びている。丹東ツツジの産地は遼寧省丹東市に集中しており、2017 年には品薄となり価格が上昇した。鉢植ツツジは少なく、家庭での消費に適している小型の鉢植ツツジは好調で、需要拡大が続いており、品薄となっている。高山ツツジは、山東威海七彩生物科技有限公司、河北石家莊農林科学研究所、昆明金科芸花卉有限公司、山東紅梅園芸科技有限公司の 4 社が主な生産者で、そのうち、山東威海七彩生物科技有限公司と河北石家莊農林科学研究所の生産量は約 1 万鉢と安定し、昆明金科芸花卉有限公司と山東紅梅園芸科技有限公司はそれぞれ約 7 万鉢となっている。いずれも景観美化、緑化、展覧などの用途へ需要の傾向が変化し、全体の生産量は安定しており、価格は昨年並みとなっている。

(2) 中国春蘭

中国春蘭の状況は良好で、規模は持続的に拡大しており、生産量と価格のいずれも安定的に上昇している。旧正月期間の総販売量は約 3000 万株で、品種は従来の「墨蘭」が主だった。中国春蘭はベアルートでの販売が可能であることから、オンライン通販によって、市場消費量が大幅に増えている。

(3) クリビア（君子蘭）

君子蘭は、最近の 2 年間に於いて、旧正月期間商戦での販売が低迷し、旧正月期間の出荷が少なくなったものの、価格は安定している。近年は各地で君子蘭の生産拠点が建設され、種子・株の需要が増加し、価格は高止まりとなり、総生産量は増加している。

(4) スイセン

スイセンはこの 2 年間販売が低迷している。主な産地は福建省漳州市で、中国市場全体の 95%以上を占めている。2016 年の出荷量は約 2000 万球。天候の影響を受け、生産・販売とも精彩を欠いている。大型球根は数が少なく、販売状況は良好。小型球根は 2015 年に在庫過多となった影響により供給が需要を大きく上回り、深刻な価格の下落となっている。

(5) ボタン

ボタンは、旧正月期間に供給量が増加した。陝西省洛陽市、山東省菏泽市で生産され、上海市や広東省などの消費地に輸送されてから催花させ、価格は比較的安定している。市場において人気を集めているのは 8～10 の花をつけた 1 株の鉢物で、花が小さいものは人気がない。

(6) サザンカ

サザンカの主な生産地は依然として福建省、雲南省、浙江省で、生産量は安定し、価格の動きは小さい。株高が 50～60 cm の中型の鉢物の人気が高い。

(7) ハイブリット蘭

ハイブリット蘭の主な産地は雲南省、広東省、福建省である。作付量は増えているものの、天候の影響を受け、旧正月期間までに生育できないものが多く、出荷量が大幅に減少した。売上は安定しており、価格は前年より 5 元高くなった。

3. 多肉植物

多肉植物は種類が多く、多肉植物販売は 2010 年に本格化し、2014 年にはオンライン通販の普及もあって爆発的に販売量が増え、急速に発展した。需要はますます旺盛で、特にハイエンド品の供給が需要に追いつかず、市場が拡大している。控えめに推計しても、2016 年は 2015 年と比べて市場での需要が 40～50% 拡大したと見られる。各地で販売促進が活発に行われ、生産量の増加が続いた。しかし 2016 年に入って価格が下落傾向になっており、市場拡大は鈍化するとの慎重な見方が広まっている。多肉植物の市場への導入期はすでに終わり、現在の市場動向は、気候面での強みがある雲南省、大消費地に近いという地理的優位性を持つ山東省、情報・産業面での強みを持つ福建省漳州市の 3 カ所が鼎立する局面になっている。雲南省の生産量は、2015 年の 2000 万株から 3300 万株に増加し、高品質の多肉植物の栽培地として雲南省を選ぶ専門生産者がますます増えている。山東省はすでに中国全土の中でも最大規模の多肉植物生産基地になっており、多様な品種が揃い、代表種ばかりでなくハイエンド品も多く、また多肉植物の育種、新品種開発の重要基地となっている。漳州地区は、多肉植物の種苗で優勢となっており、3 カ所にはそれぞれ特色がある。今後、多肉植物の鉢物は品種がさらに豊になり、品質は向上し、鉢物における重要性がますます高まると見られている。

4. 小型鉢物

近年、小型鉢物の需要拡大が続いており、生産量も徐々に増加している。多彩な品種、多様な色彩、買い求めやすい価格、管理も容易である等の点から、家庭での通常花卉消費の需要が増えており、シクラメン、リーガース、ベゴニア、ベニベンケ

イ、キク、ミニバラ等花を鑑賞する小型鉢物の大幅増加が顕著である。価格は市場でのコントロールを受け、種類により動向は様々だが、全体的には安定した値動きとなっている。一部の企業ではアンスリウムからスパティフィラムに生産を切り替えたことにより生産量が増加し、良好な売上状況となっている。球根類鉢物のユリは年々増加しており、安定した売れ行きで、価格も安定している。カラフルなカワユリの年間球根総生産量は約 150 万球で、主な産地は雲南省と天津市（大順）等で、雲南省の生産量は、2015 年の 50 万球から現在では 70 万球に増加し、卸売価格は前年比で 5 元下落したものの、旧正月期間には価格が上昇した。カワユリの栽培は比較的難しく、必要となる設備の条件が高いことから、生産量の拡大は比較的緩慢である。チューリップの鉢物はニーズが縮小し、生産量が減少しているものの、価格は昨年より好転した。ヒアシンスは、2010 年以来、球根の輸入量が 500 万球から 2500 万球へと一気に増加したが、出荷量が急激に増加したことから、2016 年の旧正月期間商戦では値崩れした。2016 年の輸入量は 20% 減少したものの、球根の売れ行きは依然として不振となっている。山東省はヒアシンス流通の最大拠点で、販売量は 2014 年の 700 万球から、2015 年には 1500 万球に達したが、2016 年には 500 万球に減少した。価格も一時は上昇したが、その後は下落し、価格の起伏が激しく、球根市場において当該年度のトピックとなった。今年は、流通業者は球根の購入について慎重な姿勢を維持している。

5. 果実鑑賞用鉢物

果実鑑賞用鉢物では、マンリョウの出荷量が安定しており、福建省龍岩市武平県と江西省贛州市大余県という 2 ヶ所の主要生産地において一方では増加し、一方では減少し、価格が下落している。価格と大余県でジンチョウゲの栽培に力が入れている影響から、マンリョウの生産量が来年は減少すると見られている。ウィンターベリー鉢物が主力産業である威海七彩有限公司では様々な規格の生産を進め、数量が増加しており、売上も理想的な状態であり、価格は昨年と同等で、市場における知名度が高まっている。キンカン類は広東省においてよく見られる果実鑑賞用鉢物だが、近年はコストが増加し利益が減少したために、生産量は減少傾向にある。旧正月期間に広東省で産出されるキンカン類は主に、カラマンシー、マンダリンオレンジ、

フクシュウキンカン、キンカンで品質も良く、家庭内装飾として置かれる中小型キンカンの生産量は増えたものの、価格は昨年よりも高くなっている。その他、ブッシュカン、レモン等の果実類鉢物の生産量もやや減少し、価格は約 10%下落した。甘粛省、山西省では鉢物果樹の生産量が少量ながら安定しており、価格は小幅で下落した。

(二) 鉢物の生産販売の特色

1. 製品の種類は豊富、継続的に品質向上

消費グループが継続的に拡大し、製品も豊富になり、個々のニーズを満たすため、各種多肉植物、ミニ鉢物、草花の鉢物の品種がますます増え、売上も活発で、市場でのシェアが高まっている。また、中国国外との最新の品種改良や生産技術交流が続いており、多肉植物、シンビジウムなどでは、花卉の輸入が減り、輸出拡大が続くなど、中国国内の一部花卉生産品質は国際水準に達している。

2. ハイエンド品は供給が需要に追い付かず、価格が上昇

花卉製品は、本来精神的充足のための消費物であることから、品質が常に第一に求められるべきものである。市場においても、ハイエンド品は高価格でも売れる。例えばシンビジウムでは、ローエンド品は 30～40 元、ハイエンド品は 100 元を上回り、アナナスでは、一般の品質のものは 20 元、ハイエンド品は 30 元となっている。こうしたことから、花卉取扱業者は品質向上に不断の努力を重ねている。

3. 旧正月期間商戦は沈静化、通常消費に重点

市場の転換に伴い、祝日消費、特に旧正月期間の消費が年間の花卉消費に占める割合が次第に下降している。こうしたことから、生産者の多くは、販売の重心を旧正月期間商戦から通常の販売へと切り替えており、1年を通して供給を行っている。

4. 鉢物製品の構成が継続的にレベルアップし、個人消費に適した製品の生産量が増加

生産者は市場の消費モデルの変化に対応するため、個人消費のニーズに応えるために研究を進めており、製品はますます個性化・多様化している。こうした中、小型鉢物として、小規格の胡蝶蘭、アンズリウム、アナナスなどの個人消費のニーズが増え、生産量及び販売量が年々増えている。名花生産者においても、ツツジ、サザンカ、キンカンなど中小型製品の生産量が増えている。

5.製品の最新化及び差別化、販売モデルを継続的に更新

寄せ植え鉢物の人気が高まり、アレンジメントの水準が高まっている。各地でコンテストが盛んに実施されており、特に、旧正月期間商戦においては寄せ植え鉢物の需要が旺盛になり、多肉植物の寄せ植えが贈答品として人気を博した。こうした寄せ植え製品はさらにバラエティーに富み、鉢のデザインも個性化、多様化している。販売モデルの更新も相次いでおり、体験型店舗、オンライン通販、提携やクラウドファンディングなど様々となっている。年初には、「北京中花怡家」と「北京花到家」、花卉園芸有限公司、家事代行サービス「管家帮」及び「一微集團新能源電車」が、製品供給、デザイン代行、配送などをワンストップで実現するサービスを共同で実施するために事業提携し、花卉が家庭に届くまでのラストワンマイル問題の解決を図っている。

6.販売チャンネルの更なる多元化

鉢物花卉は、スーパーマーケット、農産物市場、地域店舗、コンビニエンスストアなど多くの売り場で販売されるようになり、生活にますます身近なものとなっている。特にオンライン通販の普及によって、花卉製品と消費者の距離はますます近づく、小型鉢物や多肉植物だけでなく、シンビジウム、胡蝶蘭、アンズリウム、アナナスなどについても物流パッケージシステムの整備が模索されており、オンラインショップ、微信（WeChat）を通じての販売が展開され、オンライン通販専門業者が多数生まれている。

（三）対策と提言

1.合理的なポジショニング、長期的な計画

鉢物に用いる植物の中には生産周期が長いものがあり、成長の遅れなどの影響、あるいは不正確な情報によって市場に大きな変動を及ぼすことが比較的容易に起こり得る。生産者は市場動向の変化を鋭敏に把握し、生産計画を合理的に調整する必要がある。

2.他領域との事業提携でウィンウィンの関係

花卉産業は今後有望な産業として、他業界・領域から広く関心を集め始めている。花卉企業もまた、従来の業界秩序を打破するべく他産業からの資本参加を求めており、新しい発想でリソースを統合し、変化の中で新たな発展を模索している。

3.営業戦略のイノベーションによって花卉消費を推進

花卉企業は、第一に製品の内容をさらに深く探求し豊かにする必要がある。また花卉文化の普及及び宣伝を強化して家庭園芸の消費を惹起し、より多くの業界外からの人を花卉関連イベントに引き付けるようにすることが求められる。第二に、多様化したポートフォリオ・マーケティングを行うことで、物流、旅行、飲食、レジャーなどの多方面のリソースとの統合を進めてサービスを提供し、花卉産業と一次、二次、三次産業の深い融合を実現することが必要である。

4.コアコンピタンスの確立・匠の精神の発揮

現在の社会経済的低迷により、市場は複雑・錯綜した状況となっており、知的財産権（新品種、新パッケージング、新技術、新しいデザインなど）は、企業の発展にとってますます重要になっている。こうした知的財産権は、企業の真の強みであるコアコンピタンスともなり得る。政府は、企業がイノベーションを進め変革を行うよう積極的に保護し、奨励すべきであり、花卉従事者もじっくりとこれに取り組む必要がある。また、生産者は製品品質の向上に集中し、種苗育成業者は育種と販売促進に重点を置き、流通業者は製品の組み合わせと加工、パッケージング、販売モデルの革新に重点を置く必要がある。

二．切花

（一）2016 年の切花の生産販売状況

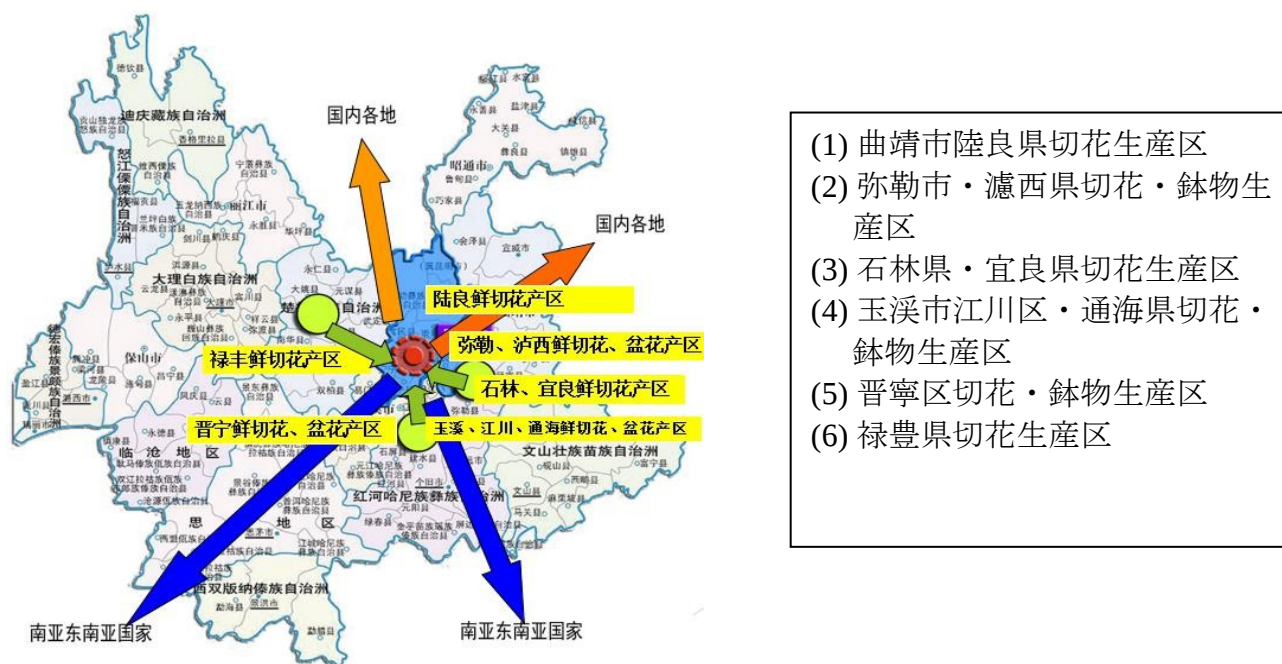
2016 年における中国全土の切花市場の状況は概ね良好であった。切花の生産面積は、種類によってそれぞれ増加し、取引額は増加を続け、輸出額は大幅に拡大し、輸入額も徐々に増加している。

雲南省が中国において最大の切花生産地で、取引及び流通の拠点ともなっており、生産・販売とも大幅に増加している。2016 年における雲南省の切花生産面積は 1.39 万ヘクタールで、2015 年と比べて 12.4%増加した。取引量は 100.6 億本で、2015 年比で 15.6%増加した。

2016 年の昆明国際花卉拍賣交易中心（KIFA）での通年での切花取引量は 9 億 6000 万本で、2015 年に比べて 14.8%増加し、取引平均価格は 12.68%上昇した。そのうち、カーネーションは生産面積、生産量とも減少し、価格が小幅で下落したが、そのほかは、ガーベラの取引量が前年比で 15.6%増加、シュコンカスミソウが 72.8%増加した。グランディフロラム、イソマツ、アジサイ等其他草本類切花の取引量もそれぞれ増加した。ユリの取引量は比較的安定している。

全国各地の状況から見て、切花の生産は季節性があるが、全国各地で気候が異なることから、各地区での生産で相互に季節性を補完しあっている。たとえばキクは、すでに海南省から広東省、雲南省、浙江省など異なる気候条件下の生産地で栽培され、年間を通じて市場に出荷できるようになっている。また、雲南省の切花生産地域も、過去の省中部をメインとする状況からさらに遠い地域へと拡大している（図 2-1）。

図2-1 雲南省切花生産地展開の解説図



2016 年に入り、切花の輸出は回復し、輸入も増加した。税関の統計によると、2016 年における中国の切花輸出額は 2.83 億米ドルで、前年比で 10.85%増加した。輸入額は 2.15 億米ドルで、前年比で 0.2%増加した。中国の花卉の主な輸出先は、日本、韓国、オランダ、米国、香港等である。主な輸入先は、洋ランがタイ、バラとカラーシュッコンカスミソウがエクアドル、球根類がチリ、アジサイとシャクヤクはニュージーランドである。

1.投資拡大、設備改善／品種増加、品質向上

減少し、代わって草花類では新品種が市場に大量に出現した。設備の改善、技術水準の向上、新品種の市場への継続的投入により、市場のハイエンド切花の需要が増大したことによって、生産者も生産に対する考え方を積極的に変えており、よい種を植え、高品質の花を育てることが業界の共通認識となっている。

2.消費増大で市場が拡大／状況が好転、業界秩序の変化

中国の切花消費は、これまでの儀式、結婚式、イベントにおける消費から、日常消費へと拡大し、花卉のオンライン通販が促す形で、市場規模は急速に拡大している。2016年における生産地状況の変化に着目すると、バラ、ガーベラ、シュッコンカスミソウ、グランディフロラム、キク、アジサイなど一部の草本類切花において、販売がそれぞれ増加した。そのうち、バラ（中でもスプレーバラ）、シュッコンカスミソウ、グランディフロラム、アジサイと草本類切花は、価格の上昇幅が最も大きかった。出荷量が増加している中で価格の上昇も見られており、市場におけるニーズが増大していることを示している。このほか、日常用切花の市場拡大によって、市場構造に微妙な変化が生じており、この結果、業界秩序にも影響が及んでいる。2016年3月、11月、12月に、雲南省の産地では切花の価格が相次いで異常に上昇したのはこのためと思われ、こうした変化は今後も続くと思われる。

3.輸入増、人気の変化／輸出回復でさらに優位に

中国の2016年における切花の輸出状況から見ると、業界全体での更なるレベルアップが進んでいることが分かる。これは、一方において人民元為替レートの変化に関係するものであり、またベトナム、ミャンマー、タイ、シンガポールなど東南アジア諸国での国内花卉消費が増加していることとも密接に関係している。これらの伝統的な輸出先市場において、花卉市場が拡大している。

同時に、中国の切花輸入は、2014年と2015年において急速に増加した後、2016年に入って輸入の伸びが鈍化した。人気の輸入切花も、従来のバラから現在中国国内にはない

「新しく、希少で、特徴のある」品種へと転換している。
2016 年におけるキクの輸入量は前年比で 60%増加し、主な輸入先はベトナムである。当該品種が輸入切花全体に占める割合は大きくないものの、地域間の相互補完性が強まっていることを示しており、中国の花卉市場は世界の花卉の流通において重要性が増している。

(三) 2017 年の切花の生産販売のトレンド

2017 年の切花市場の動向としては、ニーズ、生産量とも安定的に増加しており、市場のボラティリティは増大し続けている。花卉消費の大きな特色としては、市場の品種、品質、ブランドに対する関心が非常に高いという点が挙げられる。同市場への資本の流入が加速し、生産面積は急速に増え、生産園区の建設が相次いでいる。また、品種構成の調整が進み、新品種が相次いで市場に投入され、新品種の流通範囲が絶えず拡大している。バラ、グランディフロラム、シュッコンカスミソウ、アジサイや草花の生産能力がさらに継続的に拡張するとともに、リスクも段階的に高まっている。花卉のオンライン通販での取引量は今後も増加を続けると見られ、オンライン通販の利用拡大で市場の細分化が加速すると予測されている。輸出は増加し、輸入は国内生産を代替する形で徐々に増加している。一部の品種について中国国内での生産が困難となるか、或いは段階的に補充する必要が生じてくるであろう。

三. 盆栽

2016 年における盆栽産業の状況は、好不況が半々という状況で、市場発展の制約要因が多かった。しかし今後の市場動向は楽観視できると指摘されている。

(一) 生産販売の状況

農業部の統計データによると、2016 年における盆栽の作付面積は 1.84 万ヘクタールで、2015 年と比べて 3.45%増加した。盆栽の作付面積は増加しているものの、販売総量は減少傾向となっている。売上総額は 62.07 億元で、2015 年と比べて 19.16%増加した。輸出額は 0.42 億米ドルで、2015 年と比べて 21.17%減少

した。売上高が増加したのは、ここ数年で大型および中型の盆栽単価が上昇したことが要因で、単価の上昇は、原材料価格や人件費の上昇が大きく影響していると思われる。また欧州の経済状況の影響を受け、輸出の障壁が高くなり、このことが盆栽輸出の減少につながっている。

河北省、河南省、江蘇省、四川省、重慶市の5つの省及び直轄市の盆栽生産企業67社について実施した調査結果によると、2016年の盆栽販売量は151.06万鉢、売上高は1.78億元であった。そのうち、登録資本額が1000万元以上の企業は16社で、13社が江蘇省の企業で、67社の従業員数は合計2085人であった。従業員数が100～300人の企業は6社、20～60人の企業は19社、3～15人の企業が42社であった。従業員数の全体のうち、盆栽専門技術者は600人余りで、全従業員数の28%を占め、一部盆栽企業には、専門技術者がいないところもあった。このことから、盆栽産業においては大型企業が少なく中小企業が多く、専門人材が少ないというのが現状である。

河北省、河南省、江蘇省、四川省、重慶市の5つの省及び直轄市の盆栽企業の合計80社を対象とした調査によると、現在盆栽制作に使用する植物は60種類余りで、使用量が多い上位10種は、マツ類、ヒノキ類、イヌマキ、ニレ、ザクロ、サルスベリ、シセントキワガキ、イチョウ、ツツジ、タイワンアサマツゲとなっている。そのうち、マツ類は、クロマツ、ゴヨウマツが主力である。ヒノキ類は、ニイタカビャクシン、コノテガシワ、ハイビャクシンが主力である。河南省と江蘇省で制作される盆栽では、イヌマキ、クロマツ、ニレ、ヒノキ類、サルスベリの5種類の主力樹種を除くと、江蘇省の盆栽で使用する植物材料は河南省との違いが大きい。江蘇省では盆栽には主に、ゴヨウマツ、タイワンアサマツゲ、イチョウ、アメリカハナノキ、ツツジ、サザンカが使用されるのに対して、河南省では、ザクロ、ニンジンボク、トネリコ、パパイア、ロウバイ、カキ、サンザシ、シセントキワガキ、トウカエデなどが比較的によく用いられており、盆栽の素材には地域特性があることが分かる。自然環境、気候、土壌は各地で異なり、盆栽作りは「その土地に適したもので作る」という原則がある。こうしたことから、盆栽の流動、消費は一定の範囲内におさまリ、

やみくもに遠隔地の植物を栽培しての盆栽経営は不可能であると言える。

(二) 生産販売の特色および問題

盆栽の特色としては、第一に、生産周期が長く、生産に要する技術も複雑であることから比較的高度な芸術的価値を有し、そのために非常に高価で、一般の消費者はなかなか購入できないという点が挙げられる。第二に、生産に要する技術が複雑であることから、盆栽製作者に要求される技術水準や芸術的造詣は高くなり、このため専門人材を育成に時間がかかり、現時点では年齢、文化的背景、技術の面で断層が見られるという問題がある。第三に、盆栽の販路が単一で、伝統的な盆栽事業経営モデルである陣地戦と呼ぶものにとどまっている点が挙げられる。中国国内における盆栽の専門市場の規模は極めて小さく、盆栽の取引は現在でも、ガレージセールの域を出ていない。第四に、盆栽の栽培は標準化が困難という点である。盆栽の加工費は、加工に要した時間で決められ、盆栽生産拠点及び盆栽円の大部分は規模が小さい一方で、品種が多く、造形に要する技術が高度で、生産工程の標準化が困難である。これに対して盆栽商品、特に盆栽の輸出には低価格で小型、標準化されたものが必要となるため、生産の標準化を推進する必要性が高まっている。

(三) 対策と提言

1. 計画指導により産業構造を最適化

各地方政府は、当該地の盆栽産業の発展戦略を真剣に研究し、盆栽産業の発展計画を政府の経済発展全体計画に組み入れ、業務管轄部門は業界指導を強化し、盆栽企業の発展に向けた支援を行う必要がある。政策的な指導を通じて、盆栽企業の「小規模で集約が遅れており」、「小規模で無駄が多い」という問題を解決し、生産の大規模化、栽培の標準化、経営集約化を進めるべきである。

2. 分業化・細分化で産業チェーンを延長

業界の細分化は盆栽の産業的発展に向けた一つの方向である。産業チェーンは川上から川下まで連続する必要があるが、断絶があることを最も忌避すべきであるが、盆栽産業においてはアフターサービスの段階が最大の断絶となっている。盆栽、特に高級盆栽に対するアフターサービスが、盆栽産業チェーンを伸ばす一つの重点である。

3.様々な措置を講じて市場を拡大

第一に、これまでの実物製品市場のみというものからバーチャルとリアルを組み合わせた経営空間の発展を目指す必要がある。第二に、中国国内のみでなく、国際市場も目指すことである。第三に、単純な売買から、他業種の製品やサービスと組み合わせての提供を試み、多元化経営を図ることである。

4.技術導入による産業強化

盆栽産業の持続的発展の原動力及び活力を啓発するためには、盆栽産業従事者群の改造とスキルアップが必要である。各地の高等教育機関や科学研究機関を利用して、盆栽に関する専門技術向上や人材育成を推進する。これにより、ベテラン、中堅、若手のいずれにおいても技術レベルの底上げを図る。優れた技術成果、科学技術手法、技術発明を吸収し、盆栽の栽培、加工、管理、経営等のプロセスに応用し、技術を活用して盆栽産業を発展させることが必要である。

四．緑化鑑賞用苗木

苗木産業は数年間にわたって景気が低迷していたが、2016 年に入って生産・販売が好転した。しかし、全体的に見ると経営を取り巻く環境は依然として厳しい。市場の景気が徐々に回復している一方で、生産と販売にかかる経営コストが上昇し、資金繰りが逼迫している。また苗木の販売価格全体が下落傾向を示しており、販売量が増えても価格が下落し、粗利が縮小している。構造的な矛盾によって生産能力が過剰となり、供給が需要を上回るという問題が根本からは解決されていない。中国全土における苗木の生産量に対する販売の割合は約 50%で、生産過剰で在庫となった苗木は 200 億から 300 億株に達し、在庫圧力が巨大化している。また一方

では、苗木の価格が下落しているものの、販売量は前年を上回っており、大型で高品質の高木と花をつける低木、生垣や特色のある品種など一部では価格が上昇している。苗木経営者は差別化を進めることによって売上増加という「甘い成果」を得ることができるものもあれば、個性の乏しい苗木の販売では過当競争に陥り在庫拡大という「苦い結果」を迎えたものもあった。

（一）苗木産業の現状

マクロ経済的には、園芸市場が縮小していることから、最近の 2 年間は苗木生産の経営が困難となり、苗木生産従事者は減少している。中国全土では現在、苗木の作付総面積は 80 万ヘクタール余りで、花卉作付総面積の約 60%を占めている。2016 年の苗木の主な生産地は、山東省、江蘇省、浙江省、河南省が依然として上位グループに位置し、苗木作付面積は、山東省が 20.29 万ヘクタール、江蘇省が 18.44 万ヘクタール、浙江省が 15.56 万ヘクタール、河南省が 12.80 万ヘクタールで、生産量は、山東省が 82.23 億株、江蘇省が 43.50 億株、浙江省が 33.67 億株、河南省が 20 億株余りとなっている。作付面積ではこの 4 省で中国全土の花卉作付総面積の半分以上、全国総生産量の 3 分の 1 を占めている。

2016 年における実際の苗木使用量は、山東省が 14.31 億株で、そのうち容器に入れて育成される苗木が 1.1 億株であった。主な品種は、シナトネリコ、プラタナス、エンジュ、イチョウ、ハナカイドウ、ヤナギ、サクラ、ヒノキなど都市緑化に使用される樹種である。江蘇省の実際の苗木使用量は 18 億株で、そのうち容器に入れて育成される苗木の割合は 4.3%であった。次年度の供給可能な苗木の量は 12.6 億株で、次年度の必要量予測である 9.5 億株を大きく上回り、生産過剰となっている。ケヤキ、ベニカナメモチ、サルスベリ、モクセイ、トウネズミモチおよびイチョウの苗木使用量はいずれも 1000 万株を上回った。品種の構成は、作付面積が 0.67 万ヘクタール以上であったのはトウネズミモチ、ケヤキ、クスノキおよびモクゲンジである。樹種別で作付面積の上位 20 位を占める小型の花をつける低木は、サルスベリ、ベニカナメモチ、ハナカイドウ、サクラ、タイワンアサマツゲなどであった。また、シトロン、トウキササゲなどの在来種およびアメ

リカハナノキ、ナンテン、アカガシワやアメリカガシワなど色彩豊かな樹種の作付面積拡大も目立っている。

浙江省での作付面積には大きな変化はないものの、樹種の構成は高付加価値品中心にシフトしている。浙江省の年間苗木生産量（出荷量と在庫量を含む）は、2015年の46.86億株から2016年には33.67億株へと28%減少した。苗木の在庫量は32.88億株から18億株へと45%減少した。主な樹種は、モクセイ、クスノキ、アメリカハナノキ、サクラ、ハナカイドウ、タイサンボクなどで、量が多いものの低品質で低規格の苗木生産面積が大幅に減少した。例えば、モクセイの生産面積は2015年の2.13万ヘクタールから2016年末時点には1.4万ヘクタールに減少した。また、クスノキの生産面積は、約2万ヘクタールから1.67ヘクタールに減少した。これらに取って代わったのは、現在の緑化需要に適合している高品質の大型苗木、バイオ苗、果樹苗木、希少樹種苗や家庭園芸、花畑プロジェクト用苗の生産が行われている。

河南省の苗圃面積は約13.3万ヘクタールで、1.33万ヘクタール増加し、売上高は170億元に達した。同省の最大の産地は許昌市鄢陵県で、面積は4万ヘクタールで、うち、苗木の作付面積は2.57万ヘクタール、苗木の販売量は2.18億株で、売上高は53.98億元であった。

第二グループの河北省は、2016年の苗圃面積は8.55万ヘクタールで、苗木生産量は42.53億株であった。そのうち、容器で育成した苗木は6.79億株、実際の苗使用量は12.69億株であった。

第三グループの甘粛省は、2016年の苗圃面積は4.75万ヘクタールで、0.73万ヘクタール新たに増加した。苗木生産量は64.47億株で、そのうち、一年生及びそれ以下の苗木は15.90億株、二～三年生の苗木は29.81億株であった。主な品種は、アブラマツ、タカネゴヨウ、ドラゴントウヒ、シロマツ、エンジュ、ニセアカシア、ヨーロッパアカマツなどである。大規模緑化用苗木は主にアブラマツ（18.28億株）、エンジュ（1.25億株）であった。

四川省成都市温江区、湖南省長沙市瀏陽市、湖南省株洲市、江西省南昌市、江西省九江市、安徽省合肥市肥西県、安徽省蕪湖市、湖北省武漢市江夏区、湖北省荊門市、陝西省西安市周至県、陝西省漢中市、遼寧省鉄嶺市開原市、福建省漳州市、福建省三明市、

広東省中山市、広西チワン族自治区桂林市などの苗木生産区の苗圃面積と在庫量は、増加したところがあれば減少したところもあるものの、各地の苗圃面積の増減と品種構成の変化は小さく、苗木の在庫量は相対的に増加しており、出荷量と販売量は様々である。在庫削減と製品構成の調整が各地における共通の目標となっている。

(二) 苗木の生産販売の特色

2016 年は、苗圃生産販売の経営の二極分化が進み、経営者はいずれも圧力を感じている。大規模企業は抵抗力が比較的強いものの、価格が下落し、コストが上昇する局面となり、経営が困難な状況になった。中小の苗木企業や苗木生産の個人事業者は、資金調達が困難になっている。苗木生産の個人事業者には困難な日々となっている。

園芸市場やプロジェクト請負の変化に伴い、PPP（官民パートナーシップ）モデルと EPC 方式が工事請負の主要なモデルとなっている。特に、大規模な生態景観及び特色町村プロジェクトにおいては、十数億元、数十億元もの大型契約が締結され、園芸上場企業や大型企業が主導権を握っている。入札資格による競争入札・入札談合及び最低価格による落札という工事プロジェクト請負方式はもはや存在せず、苗木の販売方式、品質規格、製品流通の各方面において大きな影響が及んでいる。

1. 園芸市場、好不況が相半ば

東部・中部市場は、浙江省杭州市での G20 開催に備えて大規模な景観改善工事が実施されたことにより 50 億株が販売されたこと、また福建省廈門市での生態環境整備が苗木の販売に大きな刺激となったことを除いて、市場は盛り上がりを欠いた。一方で西部市場は非常に活発で、貴州省において 1500 億元余りの生態環境保護対応工事、陝西省においては万億元にのぼる大規模な生態環境整備事業及び公園改造プロジェクト、また内モンゴル自治区において「十件全カバー」と呼ばれる大規模な都市整備事業が計画・実施されていることで、苗木需要が旺盛になっている。こうしたことから、江蘇省、

浙江省、広西チワン族自治区、湖北省および東北地区の苗木が大挙して西に向かうという状況になっている。このほか、冬季オリンピック、国際園芸博覧会プロジェクト及び北京副都心建設などにより、華北地区の園芸市場が活発化し、苗木の販売量も増加している。

2. 苗木需要は一部で増加、一部で減少

大型・高品質の苗木への需要は大きく、特に街路樹に適している高木や大きな花をつける低木の需要が前年を大きく上回っている。一年生や二年生の通常の樹種の小型苗木の需要は大幅に減少し、生育が速い小型の樹種は販売が滞っており、在庫処分が大きな課題となっている。

3. 苗木価格は一部で上昇、一部で下落

ハイエンド高品質の苗木および実生苗、二次移植苗あるいは根切苗の価格は上昇しており、新種で優れた開花低木および生垣用苗の価格も上昇している。たとえば、地面から 1.3m の高さの幹の直径が 15 cm のクスノキは、安いものでは 400 元で買うことができ、高いものでは 1000 元以上となっている。浙江省紹興市嵊州市では、地面から 1.3m の高さの幹の直径が 12 cm のアメリカハナノキの一般品種では約 2000 元だが、「紅点 (Acer rubrum 'Redpointe') レッドポイント」、「十月光輝 (Acer rubrum 'Somerset')」などの人気品種になると、6000 元余りに達する。工事用としての規格に不適合な苗木や商品としての品質が低いローエンドの一般苗木の価格は下落しており、一部の一般苗木はコスト割れで販売されることもある。

全体的に、2016 年における苗木の販売は好不調の両方があった。差別化経営下での苗圃は販売が好調で、ハイエンドの大型苗木は供給が需要に追いつかないほどであったのに対して、取り立てて個性のない苗木は売れ行きが悪く、小型のローエンドの苗木を買い求める者はいなかった。江蘇省、浙江省、上海市、蘇州市、雲南省、貴州省、四川省、重慶市、北京市、天津市、河北省、山東省、河南省、陝西省、湖北省等の市場では、大型で高品質の高木で特に幹の直径が 12~20 cm のクスノキ、モクゲンジ、ムクロジ、トウカエデ、トウネズ

ミモチ、エンジュ、シナトネリコ、アブラマツ、シロマツなど街路樹に使用される樹種が歓迎され、価格が上昇した。栽培において差別化が図られた実生苗及び多数に分枝するサクラ、スズカケノキ、シナトネリコ、ケヤキには買い手が殺到し、群生低木のエノキ、ニレ、トウネズミモチ、サルスベリや大型で葉や花を観賞する高木のアメリカハナノキ、メタセコイアなどは販売量が増え、価格も上昇した。環境浄化機能を持ち、生態機能が顕著なカイノキ、カンポウフウ、「中山杉」（学名：Taxodium Zhongshansa）、ギョリュウおよびアレンジメント用苗の売れ行きも好調であった。大連市燕園のアメリカハナノキ、シナノキおよびアメリカシデ、山東省奥孚のサクラおよびスズカケノキ、青島信諾のソメイヨシノ、河南四季春のアメリカハナズオウ、嵯州のハクモクレン、杭州閩土のウィンターベリー、温州のモクセイとサルスベリのアレンジメントはいずれも好調な売れ行きで、価格は一般苗木よりも 20～50%高かった。一部には供給が需要に追いつかないものもあり、品切れとなることもあった。浙江滕頭苗木公司是、2016 年における高木と開花低木の販売量が 30 万株余り、売上高は 1.5 億元で、2015 年に比べて 60%増加した。

様々な色の小低木の苗木は販売が安定し、浙江蕭山、北崙、湖南瀏陽、河北定州、河南鄢陵、南陽、陝西周至、江蘇沭陽などの産地の各色開花低木、球根類、生垣用苗木の販売量は安定的に増加し、価格の上昇が続いた。トウネズミモチ、タイワンアサマツゲ、キフクリンナワシログミ、レッドロビン、ツツジ、アカバナトキワマンサク、ヤバネヒイラギモチ、ニシキギの販売は順調で、価格もやや上昇した。北方地区のクローブ、レンギョウ、オウバイ、セイヨウミズキ、タニウツギ等は、価格が 20～30%上昇した。常州沃野公司是製品機能を応用した商品展開を積極的に進めており、「ベルベット（天鵝絨）」と名付けられたサルスベリは、花畑などの色付けに応用され、年間売上高が数千万元に達した。苗木 1 株で 100 万元余りに達したものもあり、苦境からの脱出を果たした成功事例として注目されている。

2016 年には苗木産業の構造的矛盾が顕在化し、在庫の削減とレベルアップが非常に困難となり、その代償も大きかった。

生産地の中には、在庫量が過大となり、差別化がされていないモクセイ、シナトネリコ、サクラ、スズカケノキ、イチョウ、ハナカイドウ、アメリカハナノキ、サクラ等の製品及び小型苗木の売れ行きが低迷し、価格が下落した。内モンゴル自治区の生産区では、ヨーロッパアカマツ、ドラゴントウヒ、アブラマツなどの小型苗木の在庫量が数十億株に達し、当該地の市場において「20 年間かかっても消化し切れない」程となった。溫江、瀏陽などでは直径 10 cm、枝幅が約 3m のモクセイが、以前は 1 株 2000～3000 円で販売されていたが、現在では 300～400 元に値下がりし、それでも売れ残っている。ここ数年で価格が急上昇したイチョウは、現在は反落している。広東省、福建省のシュロの苗木、山東省のシナトネリコやヤナギはさらに深刻な「価格破壊」が起きており、苗木を伐採、或いは焼却処分するほどになり、湖北省、広東省などの異業種からの投資家は苗圃を処分し、「業務からの撤退」を進めている。

苗木産業の構造改革と在庫整理を進める中で、多くの生産地において供給側の構造改革を手始めに考え方の変化が起き、自身の条件やリソースの強みを利用して、苗木栽培と観光・レジャーを結び付けた試みが行われている。重慶市、四川省、湖北省、湖南省、江西省、河南省などの苗木産地では、観光業と組み合わせた苗圃での花木栽培という、苗圃花木による生態的利点を利用し、新しい観光旅行・レジャーサービスを実施している。このように従来の単純な苗木の販売という形態から、景観・自然環境を売り物にするという新しい苗木産業の在り方が提示されている。

4. 典型事象

2016 年には、園芸苗木産業において、業界内で広く注目され、反響を呼んだ事象や、災害が発生した。

(1) 注目を集めた 2 つの事象

第一に、植物新品種権及び盆栽の競売が実施されたことである。4 月に浙江省杭州市蕭山区で開催された「蕭山花木節」での植物新品種競売会では落札総額が 3900 万元、9 月に江

蘇省南通市如皋市で開催された競売会では落札総額が 325.70 万元に達した。泥だらけの苗木と盆栽が華やかな競売の舞台に上げられ、苗木業界への注目が集まった。

第二に、四川省成都市の苗木が陸路で輸出されたことである。成都市温江区の花木産業は供給側の構造改革の一環として、在庫削減、および産業構造の転換が進められ、花木の輸出が積極的に進められている。12 月 9 日に、温江区の花木企業が、19140 株のガジュマル（約 4.3 万米ドル相当）を「蓉欧国際快速鉄道」（四川省成都市～ポーランド・ウッチ）を利用してオランダへ輸出し、「一带一路」の一環としての鉄道での輸出を実現した。これは、「蓉欧鉄道」を利用した欧州への苗木輸出としては初めてのことで、中国の苗木輸出と在庫削減の可能性を広げた事例として注目されている。温江区からの苗木の陸路での欧州向け輸出は小さな一歩であるが、中国の今後の全世界に向けた苗木輸出にとっては大きな一歩となった。

(2) 注目を集めた 2 つの災害

第一に風害、第二に霜害である。厦門と昆明の 2 都市で園芸用樹木に深刻な被害をもたらした。

9 月に、台風 14 号「ムーランティ」が福建省厦門市の樹木に壊滅的な打撃を与え、厦門市での園芸樹木損害は 35 万株に達した。専門家は、被災した樹木を取り除くとともに新たに植えなおすことで 3.5 億元を要したと推計している。

3 月には、雲南省昆明市を大寒波が襲い、霜害によって高木が 15 万株、低木が 11 万株、地被植物 160 万 m²余りが損害を受け、数十本の道路の街路樹が深刻な被害に遭い、葉がすべて失われた。「春城」の別名がある昆明市から、春らしさが一切失われてしまった。専門家は、本来の景観を取り戻すには 3 年以上かかると指摘している。

自然災害がもたらした悲惨な結果は、業界での反省の契機となり、園芸および政府関係機関は科学と自然の秩序を尊重するよう注意喚起され、その土地に適した樹種を選択し生かしていくことの重要性を理解することになった。厦門と昆明の両都市での景観復旧作業においては、専門家による細かい検証が行われ、樹種構成を科学的に調整し、その結果耐風性

の強いヤシ科の植物が選ばれるなどしている。その土地の歴史を踏まえた検証を経てその土地に適した樹種が選定され、景観復旧と樹種構成の調整が進められている。こうした動きは、福建省と雲南省の園芸市場及び苗木販売への刺激となっている。

(三) 苗木産業に存在する主な問題点

1. 苗木産業の構造的矛盾が顕在化

供給側では、苗木産業の「構造的矛盾」が顕在化した。製品の同質化、供給と需要の大きな乖離、ローエンド一般苗木の生産過剰、道路や建設工事に適した大型苗木や紅葉低木、特に街路樹として必要なハイエンド苗木が不足するなど、需給の矛盾が大きな問題となっている。現在の苗木産業の主な問題点としては、市場や顧客の多様化・個性化ニーズが高まっている一方で、供給されている製品やサービスはローエンドのものが多くという点である。苗木の生産能力過剰を解決し、効率を高めることは供給側において大きな課題となっている。

需要側では、西北、華北地区などでは明るさが見られるものの、市場全体としては需要不足となっている。東・中部地区の園芸市場の工事量は前年比で 20～30%減少し、東北地区では 50%以上も減少し、需要不足が深刻化しており、苗木の生産販売に大きな影響が及び、在庫消化が非常に困難となっている。

2. 苗木企業の資金調達困難、重い経営負担

苗木企業経営者の多くは資金調達先として銀行からの借入などの間接融資に依存しているが、「借入が困難で資金調達コストが高い」という問題点に直面している。ここ数年は市場が低迷し、苗木の販売量減少と価格の下落が起きているほか、土地、人件費、管理費、運営コスト上昇など経営を圧迫する要因が多く、苗木生産者、特に大規模な苗圃経営の負担が非常に重くなり、経営が困難となっている。

3. 低い市場集中度、市場におけるリーディングカンパニーの不在

中国は世界最大の苗木生産・販売国だが、苗木の経営主体の大多数は小規模分散型であり、業界内に高い研究開発力、技術力を持ち、先進的経営管理を行い、大きな市場シェアを持つリーディングカンパニーが存在せず、業界の代表的企業が業界発展の方向性を示して産業のレベルアップを牽引するということがない。

(四) 2017 年の苗木生産販売の状況と展望

2017 年は、世界の政治経済の不透明感が依然として存在し、中国経済に対する下向きの圧力は依然として大きいものの、園芸産業の発展状況は慎重ながらも楽観視できる。苗木市場は回復傾向にあり、価格上昇の傾向も比較的明るく、苗木産業には機会と挑戦が併存しており、見通しは明るい。

1. 機会

(1) 迫る初めの百年目標

「二つの百年」（中国共産党創設 100 周年の 2021 年と新中国建国 100 周年の 2049 年）のうち最初の「百年」の目標実現の期限である 2020 年が近づき、中央および地方の双方でインフラ整備への投資が活発に行われている。公開されたデータによると、今後 3～5 年の投資によって生まれる商機は 100 兆元以上であり、園芸・苗木産業の発展の余地は非常に大きい。

(2) 政策的支援が相次ぐ

「2017 年中央一号」文書において、「花卉苗木」産業を特色と優位性を備えるある産業に発展させる方針が示され、政策的支援の実施が明示された。このことは同産業のレベルアップに大いに利するものである。

(3) 国家戦略とインフラ整備による牽引

「一帯一路」、長江経済ベルト、京津冀（北京市、天津市、河北省）協同発展、環境保護及び維持施策、ニュータウン建設、特色のある町村づくりなど各種戦略の実施によって、巨額の資金が比較的長期にわたって投じら

れる。こうした景観美化や環境改善施策が、いずれも園芸・苗木産業へと繋がる。

(4) 「第十三次五ヵ年計画」の実施と PPP（官民パートナーシップ）の効果

今年及び来年は、「第十三次五ヵ年計画」が大々的に実施され、また PPP データベース内プロジェクトが集中的に実施されるため、園芸市場の景気回復や苗木の販売に大いに有利に作用する。たとえば、「京津冀（北京市、天津市、河北省）森林復旧生態保護及び修復協同計画」では、緑化に 473.51 億元が投じられ、生態系保護、水源林と防風防砂林の建設、沿海部基幹生態環境整備、国家備蓄林建設工事及びグリーン産業発展などいずれのプロジェクトにおいても大量の苗木需要が発生する。

(5) 不動産とリゾート産業による刺激効果

不動産業では年間で 10 兆元を超える投資が行われ、さらに新たな発展の余地がある（例：「第四世代住宅」概念）。また、観光・リゾート産業の急速な発展で、観光地などでの庭園建設や観光都市の緑化建設が刺激を受けている。

こうしたことから、園芸・苗木市場は、今年から来年にかけて徐々に回復すると見込まれ、苗木産業は新しいチャンスを迎えている。苗木需要とトレンドを分析してみると、今回の大整備と供給側の構造改革が進めば、特にここ数年の在庫の圧縮、旧式の生産能力の淘汰、そしてローエンド品の大部分が処理されることで、ハイエンドの高品質・特色ある苗木が市場の主流になると見られている。今後の苗圃建設と製品のポジショニングはより合理的となり、品質重視が進むなど、以前の規模拡大一辺倒から品質と効率重視に切り替わり、これにより個性の乏しいローエンド品から差別化されたミドルエンド・ハイエンド品中心となり、健全と持続可能な生産販売体制の構築が進むと見られている。

2.挑戦

- (1) マクロ経済はまだ底を打っておらず、経済成長が鈍化すると予測されており、不確定な要素に起因する経済変動のリスクは排除されていない。
- (2) 供給側の構造改革はさらに進んでおり、苗木産業の構造調整も堅実に進めていかななくてはならない。苗木産業は、在庫削減、コスト削減、販売拡大、収益性向上といったプレッシャーにさらされており、課題は大きく、運転資本とキャッシュフローを保ち、債権管理を徹底するための知恵が求められている。
- (3) 苗木産業は、（規模と数量の拡張という）前半段階から、更に難易度の高い（高品質・高効率が求められるという）後半段階に入り、苗木企業の経営者には、決断力、耐久力と判断力、特に機会を発見して把握する能力とリスクを予防しコントロールする能力が必要とされている。
- (4) 機会に直面して挑戦するに当たり、苗木企業の経営者は中長期的な布陣を心掛けなければならない。すなわち、「ポジショニングを見直すこと、生産能力を調整して在庫を削減すること、製品構成を調整してコストを引き下げること、製品のイノベーションアップを進めること」の4つの要点を抑え、「3つの高と低」すなわち高品質、高水準、高効率、低コスト、低在庫、低リスクを実現させる。（リスク管理という）「シートベルト」と、（コスト削減という）「ウエストバンド」を締め、生き残りを図り、今後の経済全面回復に向けて準備を進めなければならない。

3.市場の動向と製品のトレンド

市場の動向を観察すると、西部地区と華北地区が、園芸市場発展の余地が依然として大きく、需要が旺盛であり、今後の苗木生産販売の主戦場となると思われる。中部地区では都市環境改善が、東南地区では環境維持や公園・田園都市建設、景観緑化及び改造、特色のある町村づくりなどによる需要拡

大が期待できる。大規模不動産開発での庭園作りや屋上緑化の潜在需要も依然として大きく、商機は大きいと見られている。

2012年からの5年間の調整によって、苗日の生産と販売は正常な水準に回復し、市場における苗木製品の需要は、ローエンドで普通のものから、高品質で特色を持つハイエンドのものに移り変わっており、これによって苗木の販売価格が上昇している。製品需要の方向性としては、大型で価値が高く、街路樹として葉、花、果実の観賞が可能な高木及び中型の開花低木、群生低木、直立高木、景観造形に適した樹種及び枝垂れ苗木、生態学的機能があり屋上緑化に適した低木やフジなどの苗木、花畑及び花壇造形に適した開花低木の苗木、冬に花が観賞できる樹種の苗木などである。これまでのところを総括すると、新しい経済の時代において、苗木産業はポジショニングを改めた上で生産形態を転換し、研究開発と中長期的な投資を強化し、製品構成の最適化および生産販売モデルの革新を進めなければならない。この場合、規模だけを追求するのではなく、少量で高品質の製品販売モデルにするべく、供給側の構造改革を通して品質と効率を向上させる必要がある。工業製品を設計するのと同じように苗木を設計し、「匠の精神」を発揮して製品の付加価値向上を図ることで、従来のローエンド主体からミドルエンド、ハイエンド主体へと製品構成を切り替え、製品と消費の双方のレベルアップを図り、市場と顧客の多様性や個性化ニーズを満たさなくてはならない。工業的思考、インターネット的思考、業界を超えての思考、ブランド的思考及びシェアエコノミー的思考によって産業のレベルアップを達成することで、苗木産業の持続可能かつ健全な発展を促進する必要がある。

（本報告は、鉢物の部分については中国花卉協会鉢物分会の庄新江秘書長が、切花の部分については昆明国際花卉拍賣交易中心の張力總經理が、盆栽の部分については中国花卉協会盆景分会の施勇如執行会長が、緑化観賞用苗木の部分については中国花卉協会緑化観賞苗木分会の呉世光副秘書長が執筆し、中国花卉協会がとりまとめて発表したものである。）